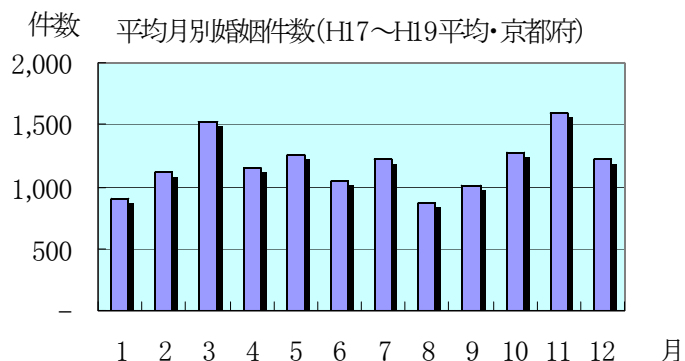


Statistical Room

6月の花嫁

6月に結婚式を挙げる花嫁は「ジューン・ブライド」(June bride)と呼ばれ、この月に結婚をすると幸せになれるというのは西洋のローマ神話からきているとも言われています。

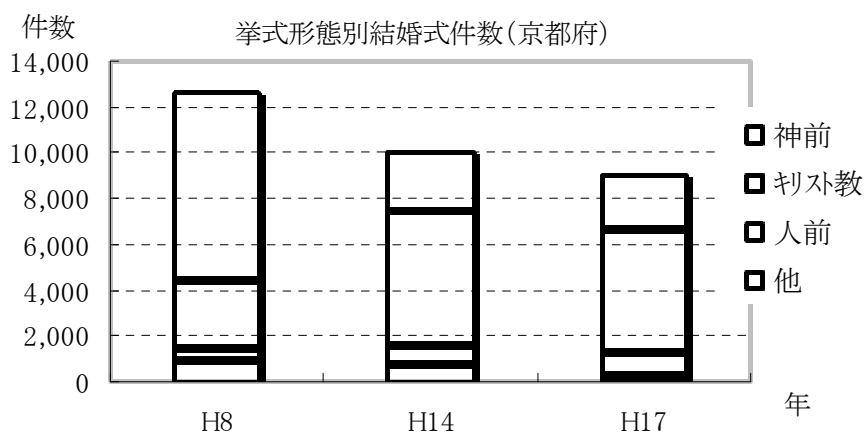
厚生労働省の人口動態統計から平成17年～19年の平均月別婚姻件数をみると、京都府の6月の婚姻件数は1,045件で12月のうち9番目と低い数値となっています。全国的な傾向も同じですが、寺社が多い歴史都市京都でも西洋風の結婚観は関係がないのでしょうか。



い歴史都市京都でも西洋風の結婚観は関係がないのでしょうか。

さて、経済産業省の特定サービス産業実態調査報告書 結婚式場業編(平成8年、14年、17年)から、国内における10年ほどの挙式形態別の挙式件数の推移をみてみましょう。

京都府では挙式総数は平成8年の12,578件から平成17年の9,059件へ約3,500件減少しています。これは婚姻数自体が16,153件(平成8年)から14,030件(平成17年)に減少していることなどがその背景にあると考えられます(前述人口動態統計)。



結婚式の内訳ですが、神前式が8,020件(平成8年)から2,295件(平成17年)へと大幅に減少しているのに対し、キリスト教式は、逆に、3,022件(平成8年)から5,383件(平成17年)へと、大きく増加しています。

これは全国と同様の動きを示していますが、結婚式については京都でも西洋化しているのが昨今の事情のようです。